

台湾における口蹄疫

台湾と九州は面積や経済規模がほぼ同じ、その台湾でかつて口蹄疫が猛威をふるったことがあります。対応も遅れ、甚大な被害をもたらしました。そのときの流れを教訓とする資料です



台湾には最近少なくとも二回の口蹄疫ウイルスの侵入があった。

第一回目の侵入(豚に親和性の強いO型ウイルス)

1997年3月20日付けで台湾畜産局から国際獣疫事務局(OIE)および日本政府宛てに口蹄疫の発生が報告された。それによると最初の発生は3月10~14日頃と推定され、多数の材料が英国のパーブライトにある世界口蹄疫診断センターに送られ、検査の結果、4月2日にO型のみであると確認された。日本政府は3月20日に台湾からの偶蹄類動物の輸入、また2月21日以降に屠殺された偶蹄類動物からの畜産物の輸入の全面禁止措置をとった。その結果台湾の養豚業に壊滅的な打撃を与える結果となった。

台湾では1997年2月5日が旧正月であり、旧正月用に大量の豚の臓器が中国、香港等から船で密輸入され、また同時に子豚も冷凍魚と共に大量に密輸入された。これらの残滓を含む厨芥が新竹および台南地域の豚に与えられた結果、口蹄疫が台湾に発生した可能性が高い。

1997年3月20日の口蹄疫の確認後、感染群(豚)の殺処分を実施したにもかかわらず、豚肉の市場閉鎖や豚や車や人の移動を禁止しなかったため、発生の勢いは衰えることなく口蹄疫は3月末までに北部の一部を除き台湾中の養豚の盛んな県に広がってしまった。そのため台湾政府は備蓄されていたワクチンの他に大量のワクチンを購入し、ワクチン接種を行うことに決めた。ただし、口蹄疫の発生した農場では症状の有無にかかわらずすべての豚が殺処分された。今日までに発病頭数と殺処分頭数の合計は500万頭近くになっている。この豚に特異的に感染するO型ウイルスは、全国的にワクチン接種が行われているにもかかわらず、1999年にも散発的発生が続いた。

この豚に病原性の強いウイルスによる被害の総額は表2に示されているがごとく約4,000億円と考えられ、今世紀における口蹄疫による世界最大の被害と言われている。

このO型ウイルスは主として豚(と水牛)にのみ病原性が強く、牛やその他の偶蹄類に感染しないと言われている。

表2:台湾の口蹄疫による被害

1997年の直接的被害	Million US\$	
1. 殺処分豚の補償金	187.5	(403万頭) 37%
2. ワクチン(2100万ドース)	13.6	
3. 死体処理および環境保護費	24.6	
4. その他の諸経費	27.9	
5. 市場価格の下落による損害	125	(初期の4ヶ月間)
合計 US\$ million	378.6	(約405億円)

日本獣医学会「極東における口蹄疫の発生状況」小澤義博
(国際獣疫事務局(OIE)東京事務所アジア太平洋地域代表)より抜粋

この資料で殺処分された豚は500万頭とあります。ちなみに平成18年度の九州の全豚の頭数は308万頭です。